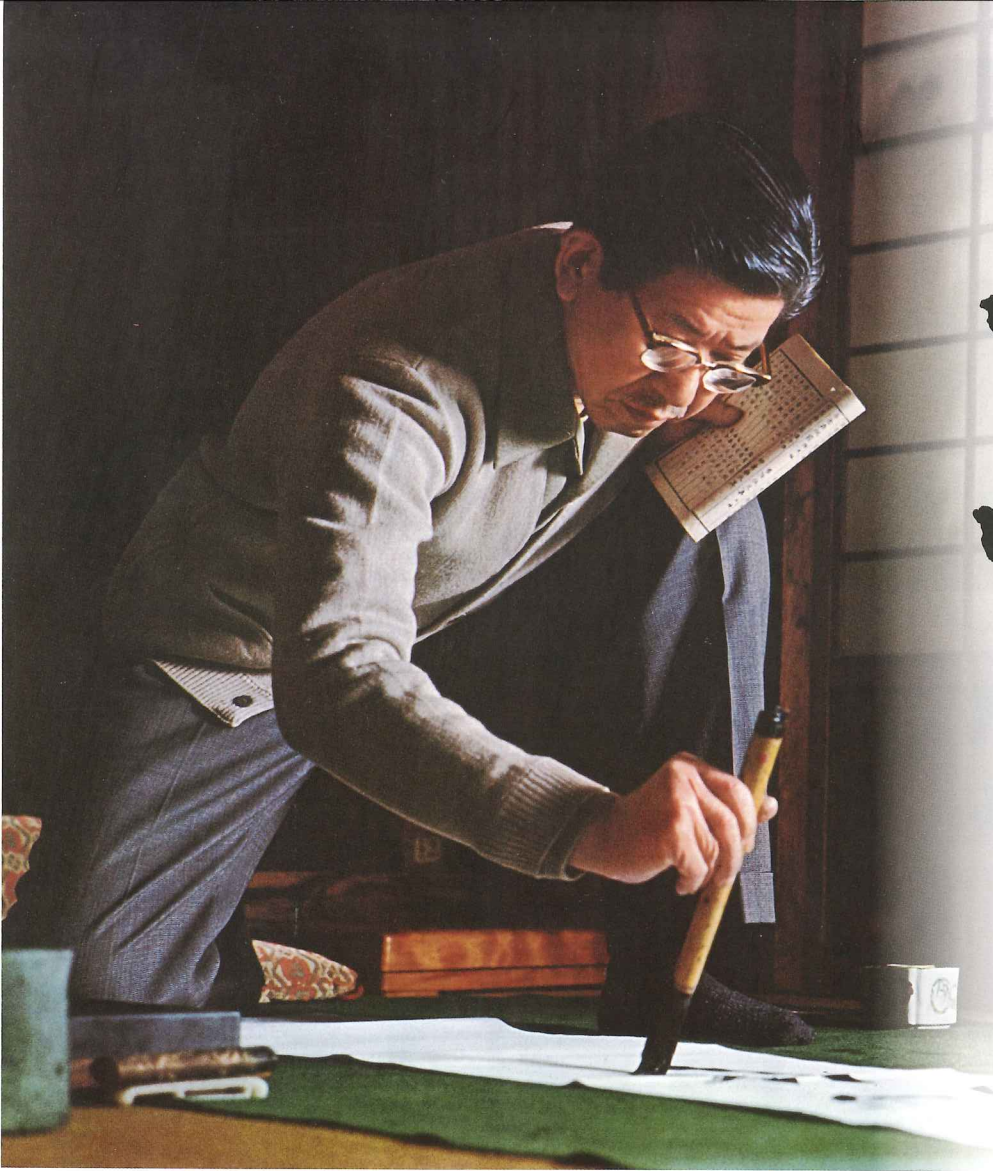


真つすぐな書家

小坂奇石

の書と生涯



2020年

6月19日(金)～8月5日(水)

関連イベント

●展示解説 (申込不要。観覧券必要)

7月5日(日)、7月30日(木) 11:00～11:30

講師 立石充 (当館学芸員)

※新型コロナウイルス感染防止のため、6月28日に予定していたトーク「小坂奇石の素顔」は来年度の小坂奇石展まで延期します。

会場 1階 特別展示室・ギャラリー

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日

観覧料 一般 520円 (410円) / 高校・大学生 360円 (290円)

小・中学生 260円 (200円)

( ) 内は20人以上の団体割引料金。

小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中は無料です。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額です。

主催 徳島県立文学書道館

後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社 NHK徳島放送局 四国放送



「線の行者」として知られる徳島県海部郡美波町生まれの書家・小坂奇石(こさかきせき) (1901〜91年)は、「書の本質は線にある」と語り、生涯にわたって書の理想を追求しました。そして、書に対して、人としても自身の考えを決して曲げない剛直さがありました。

本展では当館所蔵の代表作を中心に33点を展示するほか、十代の頃から写真や制作のための帳面、直筆原稿、愛用の筆・硯など関連資料を紹介し、真つすぐに生きた奇石の書と生涯を数々のエピソードとともにたどります。

黒木拜石に師事していた17歳の頃の**小坂奇石**



日展の文部大臣賞受賞作「寒山詩」69歳筆



絶筆となった競書雑誌「書源」の題字



日本芸術院恩賜賞・芸術院賞を受賞した80歳の奇石。右は妻・カツミ、左は長女・淳子=東京・上野の日本芸術院で



「一声孤鶴破寒煙」75歳筆



「大福帳」と呼び、作品の題材などを書きためていた奇石の帳面

●交通アクセス(JR徳島駅から)

**徒歩 約15分**  
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

**バス**  
〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。  
〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。

**タクシー・自動車 約5分**  
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。当館北側に駐車場があります(43台・大型バス2台)。

●同時開催の展覧会

書道企画展  
梧竹さんの“へんてこりん”な書  
6月16日(火)～9月27日(日)

作品募集のお知らせ

第5回 書道創作グランプリ  
～手本のない“実力”作品展  
予選作品募集

7月1日(水)～9月6日(日)必着  
募集要項は当館ホームページをご覧ください。当館でも配付しています。

